

1. 評価結果概要表

平成 21年 2月 21日

【評価実施概要】

事業所番号	2090200078
法人名	特定非営利活動法人峠茶屋
事業所名	NPO法人峠茶屋
所在地	松本市反町707番地1 (電話) 0263-64-1270

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成21年2月13日	評価確定日	平成21年3月9日

【情報提供票より】(21年 1月 10日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 2月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人	
職員数	12 人	常勤4人	非常勤8人	常勤換算3.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (1月 10日 現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1名	要介護2			
要介護3	3名	要介護4		3名	
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 84.7 歳	最低	80 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松本市立会田病院・篠崎医院・豊科診療所・なかじま歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旧四賀村の反町地区、眼下に保福寺川を眺め、県道302号線より少し山手に上がり、点在する住宅地の中にグループホームすみかはある。人間らしく最後まで、自分の力で生活できることを目標に、ぼけたっていい、できないところは手伝ってもらえばいい。元気なときは、みんなの世話をした。世話をしてもらうことは人を育てるだよね、というお年寄りの声がかえってくるような、人が人として行う当たり前の暮らしの考え方が豊かな自然の中で、決してふれることのない管理者や職員の熱い想いと共に展開されていた。利用者に寄り添いながら「その人にとって今何が必要か」を常に問い続け、オムツはずしの介護実践、心肺機能の活性化や廃用症候群防止の取り組み、看取りの介護等医療面からの健康管理を視野に入れて、積極的に、精力的に実践し、その成果を出している。テレビや鏡を設けないなど独自の介護方針を持ちながら、認知症になっても豊かに活気を持って、四季折々の自然の食材と共に暮らしてゆけるよう支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票は開所1年目ということもあり、管理者が作成したが、全職員に対して評価すること、評価されることの意義を十分に伝え理解を得ている。次年度での全職員による自己評価の結果と、今回の自己及び外部評価により得た改善課題へ向かって、具体的な取り組みを始めることに大いなる期待を持った。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は今年度は3回開催され、建設的な意見も出されたが、主として事業所の理解や認知症の説明などに終始してしまった。構成メンバーは有識者も多く、運営次第で有意義な会議になることが期待されるので、会議内容の更なる工夫を望みます。又、会議の継続性や地域との結びつきをよくするために、任期の長い民生児童委員や防災協力者の地元消防団も委員に加えることを望みます。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>月1回発行のすみか通信に利用者の暮らしぶりの報告が充分に出来ていて、ご家族からも高い評価を得ているので、その信頼度の高さを感じた。利用者を支えていくパートナーとしてご家族を位置付けているので、ご家族の思いや意向の大切さを十分に認識している。ご家族の具体的要望等にはその都度対応している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の隣組に加入し、地域活動に参加するなど地域の中で、地域と共に暮らすための実践的活動をしている。日常的な事業所周辺の散歩・会話・おすそ分け、時には農作業の指導を受けている。居間や居室の窓からは畑作業をしている姿なども見受けられ、相互に声掛けなどもしている。地域に向けての発信として、介護教室や認知症などの相談も今後行う計画を検討中である。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご家族や地域住民との交流の中で、人間らしく最後まで自分の力で生活できること、寄り添い語り合いながら穏やかな生活が出来るよう支援してゆくことを理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケース検討や申し送りの中で常に理念に戻って「その人にとって今何が必要か」「その人の生活が理念に則って支援されているか」を問い掛けて、職員の意思統一をしている。職員の話からも理念が十分に浸透し、日々の実践の中に活かされていることを感じた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の隣組に加入し共同作業に参加している。敬老祭への参加、農作業の指導、野菜等のおすそ分け、日常的な散歩時の会話や挨拶等地域住民との交流には積極的に取り組んでいる。今後は地域貢献として、認知症の介護教室や老後への不安等への相談などを企画検討中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は開所1年目ということもあり管理者が作成したが、評価すること、評価されることについては、その意義を全職員に伝え、理解を得ている。職員からは自らを振り返るよい機会である、マンネリ化への脱皮になる、自分たちが頑張っていることを見てもらえる等の言葉が聞けた。		

特定非営利活動法人峠茶屋グループホームすみか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>開催回数は3回であり、構成メンバーは有識者や地域を動かす人もいて会議のあり方としては充分であると感じた。建設的な意見も頂いているが、認知症の事や事業所を理解してもらうことが中心になってしまった。</p>		<p>地域代表としての町会長の任期が1年であるので、地域からの継続性のある支援を得られるよう任期の長い民生児童委員を加えたり、さらには防災協力等の観点から地元消防団も加えることを望みます。又、開催回数については構成委員の負担等も配慮して、指導する市とも十分に協議して検討されることを勧めます。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政としては運営推進会議に包括支援センターの職員が構成委員となり連携は密である。認知症に関する情報交換や地域の困難ケースの相談、認知症キャラバンメイトとしてサポート講座の協力などの接触がなされている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回発行のすみか通信により、その月の暮らしぶりの様子や健康状態を担当者の手書き欄を設けて報告している。さらに、面会時や衣類の入れ替えをご家族に依頼しているのでその折にも報告している。金銭管理簿については今後定期的に報告が出来るよう体制を整えている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会の折にご家族の思いや意向を伺っている。ご家族と共に利用者を支えてゆくことを柱にしているので、ご家族の意見を大切にしている。ご家族からの評価は利用者の為にといい姿勢がよい、一日の過ごし方に工夫がある、家庭的で暖かい、清潔で臭いがない等であった。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>これまでに離職者はなく、精神障害者の就労や研修の場としても事業所を利用してもらっている。無理のない人員配置や志を同じくする者の採用等、職員の間が利用者との人間関係を良くも悪くもすることに着目して人事管理への配慮をしている。</p>		

特定非営利活動法人峠茶屋グループホームすみか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育は事業所にとっては財産であるという基本姿勢を持ち、事業所内外の研修に積極的に参加させている。介護技術の習得については現場での直接指導も行っている。研修結果については職員会議で報告し、共有化を図ると共に、全職員の研修の機会にもしている。職場では利用者のことは話しても私語はさせないことも職員教育の柱としている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は交流を行っていないが、21年度は県グループホーム、宅老所連絡会や松本圏域グループホームの学習会に参加し、積極的な情報交換を行う計画である。中信地区の世話人という立場でもあるのでネットワーク作りへの取り組みを検討中である。介護保険制度の求める差別化や競争原理と情報交換との狭間で困難さも同時に意識している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅のケアマネージャーから情報を得て、ご家族との事前の接触を多く持ち、まず、多種多様であるご家族の状況を素直に受け入れるようにしている。ご家族との良好な関係は利用者にとっても、よい関係が築けると心得て入居の対応をしている。入居を拒まれる方はご家族と一緒に一日事業所で過ごしてもらうなど、馴染みながら利用できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	見てやる者、見てもらう者という関係を持たず、利用者のご家族との関係を尊重しながら、必要な時、必要な介護を実践できるよう取り組んでいる。利用者をよく理解するための努力は惜しまないよう心掛けている。		

特定非営利活動法人峠茶屋グループホームすみか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>事前情報により先入観で利用者を判断することのないよう、入居前に利用者とは面談せず、生活を共にした時、出会った時から複数の目で観察した内容を踏まえて、利用者の思いや意向を把握するように努めている。さらに、医療機関の情報や日々の生活の記録をきちんと残し、分析や判断を加えて把握するようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>初回の介護計画のたたき台はケアマネージャーが作るが、利用者毎に担当制をとっているため、担当者が中心となって、集団討議を経ながら介護計画書を作成している。担当制にすることにより、計画立案への理解や日々の観察力がより高まる結果となっている。ご家族には計画書を送り、了解を求めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>最低でも6ヶ月に1度は見直し、状況の変化した場合には、観察と記録を重視しつつ、職員間で話し合いをして共有化を図りながら、臨機応変に対応している。ご家族には見直しの都度、計画書を送付して了解を取っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>職員として管理者を含めて3名の看護師を配置し、医療連携体制を活かした対応をしている。医療機関との連携が密であり、早期退院への努力や受診への付き添いも行って事業所の多機能性を活かしている。</p>		

特定非営利活動法人峠茶屋グループホームすみか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者やご家族の了解を得て、全利用者が事業所の協力医療機関となっている。協力医療機関との連携はよく、月1回の訪問診療、緊急時の入院を含む対応が来ている。さらに認知症専門医や歯科医との連携もよく、利用者やご家族から医療面での安心を得ている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化により医療的処置や入院が絶対的に必要な場合等を除いて、基本姿勢として事業所内で看取ることとし、契約時に看取りの条件をご家族に説明し、理解を求めている。具体的には看取り状態になった時に、利用者がどのようになるか説明し、医師の意見を参考にして検討することとしている。これまでに2名の看取りを行った。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>運営規程に守秘義務の条項を設けて、違反した場合には「違約金を求める」と強く規定している。日々の介護の中では、尊厳を傷つけるような言葉を使わないよう職員間で注意しあうと共に、居室内にオムツ等の利用者の恥部を晒さないよう、整理整頓への強い指示がなされていた。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。日中は出来るだけ居間兼食堂を利用して他の利用者や職員との接触を多く持つようにし、居室に居続けて廃用症候群にならないよう配慮をしている。大きな声を出させたり、窓から見える四季折々の景色を見てもらったりして常に生きる活力を引き出せるよう工夫している。</p>		

特定非営利活動法人峠茶屋グループホームすみか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化しているため、食事を職員と一緒に作ることはできないが、野菜の下ごしらえ、台拭き、片付けは可能な範囲で行っている。食材は生協から取り寄せているが、季節に応じて事業所周辺の野にある食材も活用し、調理を主として行う職員の創意工夫を凝らした食事が作られていた。テレビのない食堂に流れるBGMがとても心地よかった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は夏場は週3回、冬場は週2回、午前中に行われている。清潔保持、観察、快適さを入浴の主眼としているので、希望する回数や時間の実現が難しいが必要に応じて柔軟に対応している。入浴拒否者にはタイミングを見計らいながら対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	干し柿、梅干、ジャムやかんぴょう作り、味噌作りなど利用者の昔取った杵柄を活かし、生活感あふれた日々を過ごせるよう支援している。できるだけ目の前に広がる自然界にある物を活かして昔ながらの自然や、季節と共に生きる生活環境を保持しようとしている。そんな暮らしが利用者の楽しみや気晴らしに繋がると考えている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課として事業所周辺の散歩をしており、途中で近隣の方と会話したり、おすそ分けを頂いたり、果実や野の草を取ったりと地域の中で、自然の中で暮らす日々を送っている。季節ごとに花見、福寿草祭り、軽食喫茶へと少し遠くへ出掛ける楽しみも味わっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開所より「鍵を掛けない」ことを目標に掲げ、現時点に至って、鍵を掛けることの必要性の無いことを全職員で確認でき、さらに、鍵は人間の心にまで鍵を掛けてしまうものであることも理解できたと管理者から伺った。		

特定非営利活動法人峠茶屋グループホームすみか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防災訓練は実施していないが、スプリンクラーや非常通報装置等の防災設備は十分に備わっていた。防火管理者の資格も取得し、運営推進会議で地域の住民や消防団の協力を得る話題も持ち上がっている。手作りの綿入れの防災頭巾(座布団や防寒具にもなる)を準備しており、笛と鈴が付けてあり(居場所確認のため)その工夫に感心した。</p>		<p>災害の設備等の準備は出来ていても、具体的対応には訓練を通じて身体で覚えるしかなく、少なくとも年2回は防災訓練を実施することを望みます。地域との協力を得る際は、役割分担を如何にするか十分に検討し、協力者の事故等の危険回避への配慮をすることを望みます。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事作りは1人の調理担当の職員が行っており、栄養バランスはよく保たれている。ご飯を主とし、朝、夕は味噌汁を付け、おやつは手作り、時には野の食材も活用して、自然と共に生きようとする暮らしの匂いのする食環境となっていた。食事量や水分量の確認は健康状態のチェックで判断している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間兼食堂は窓からの採光がよく、自然の移り変わりも眺められ、台所はオープンとなっていて調理の音や匂いが感じられ、木造の暖かさもあり、居心地よく過ごせる空間になっていた。共用空間は、テレビをなくして心地良いBGMが流れ、整理整頓が行き届き、幼稚さを排除した落ち着きを感じられた。又、洗面所には写った利用者が、自分に話しかけて混乱しないように鏡を設置してなかった。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は入り口に和服の生地で作った居室ごとの暖簾があり、室内にはタンス、物入れ、ギター、写真、時計、洋服等の利用者の馴染みの物が置かれていた。窓からは近隣地区の家屋や畑が見られ、畑仕事の際は声掛けも行われ、居心地よく過ごせるよう工夫されていた。一室だけ、これまでの生活の継続性や安全への配慮のため畳部屋になっていた。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。